

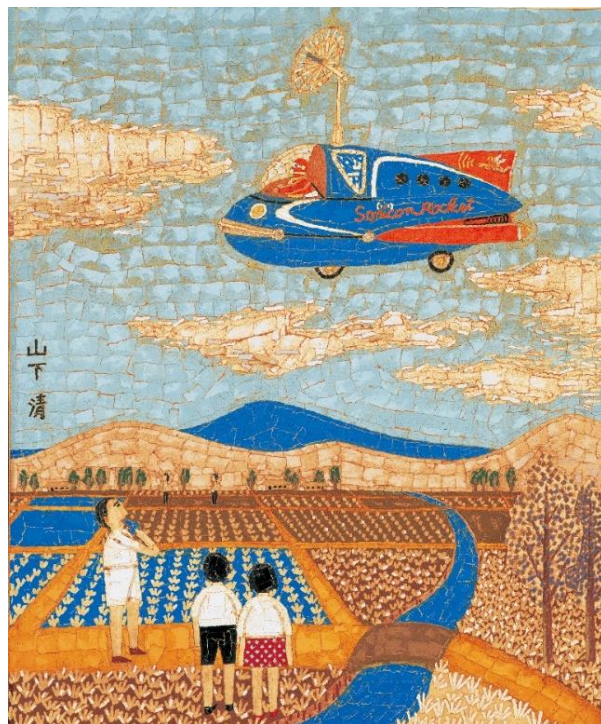
【報道関係各位】

生誕 100 年

山下清 展

百年目の大回想

2023年 4月8日(土) ▶ 6月11日(日)

広報
画像 ①《ソニコンロケット》貼絵 1959(昭和34)年頃
株式会社増田屋コーポレーション蔵

佐川美術館では春季企画展として「生誕 100 年 山下清展 ー百年目の大回想」を開催いたします。

“放浪の天才画家”と言われた山下清（1922～71）。18 歳で放浪の旅を始め創作を続けるなか、31 歳の時、アメリカのグラフィック誌がその画才に注目し、脚光を浴びるようになりました。

その後、「今年の花火見物はどこに行こうかな」の言葉を最後に 49 歳で生涯を閉じるまで、「日本の原風景」として人々に愛され続けてきた貼絵など多岐にわたる作品を手掛けてきました。

本展では、貼絵や油彩、水彩画、ペン画、陶磁器など 1961 年のヨーロッパ旅行に持参したスケッチブックのうち初公開の習作を含め、約 190 点を展覧。山下芸術の新たな側面を発見するとともに、生誕 100 年を迎えた「百年目の大回想」という名にふさわしく、その生涯にわたる創作活動を振り返ります。

展覧会実施概要

- ◆名 称：生誕 100 年 山下清展 ー百年目の大回想
- ◆会 期：2023 年 4 月 8 日 [土] ～ 6 月 11 日 [日]
- ◆開館時間：午前 9 時 30 分 ～ 午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
- ◆休 館 日：月曜日
- ◆入 館 料：一般 ¥1,200/高大生 ¥800（要学生証）/中学生以下無料 ※ただし保護者の同伴が必要
※ 専門学校・専修学校は大学に準じる ※ 障害者手帳をお持ちの方（要手帳）、付添者（1 名のみ）無料

本展は WEB 事前予約制

3 月 17 日 (金) より予約受付開始

※予約時にネット決済によるチケット購入が必要
※詳細はホームページをご覧ください

【主催】佐川美術館（公益財団法人 S G H 文化スポーツ振興財団）
【特別協力】山下清作品管理事務所 【企画協力】ステップ・イースト

【後援】滋賀県、滋賀県教育委員会、守山市、守山市教育委員会
【協力】S G ホールディングス株式会社、佐川急便株式会社、佐川印刷株式会社

作家紹介 山下 清 (1922-71)

- 1922 年 3 月 10 日、東京・浅草に生まれる。
- 1924 年 (2 歳) 前年の関東大震災により住居を失い、父母の故郷・新潟県に移住する。
- 1925 年 (3 歳) 重い消化不良にかかり 3 ヶ月後に完治するが、軽い言語障害を患う。
- 1932 年 (10 歳) 父の清治が死去。この頃から知的障害が少しずつ顕著になる。
- 1934 年 (12 歳) 千葉県の実業学校「八幡学園」に入園。翌年には教育の一環であった「ちぎり絵」において画才を発揮させる。
- 1940 年 (18 歳) 11 月 18 日、学園から突然姿を消し、放浪の旅に出る。
- 1953 年 (31 歳) アメリカのグラフィック誌『ライフ』をきっかけに山下清大捜索が始まる。
- 1954 年 (32 歳) 地元の高校生により鹿児島で発見される。
- 1956 年 (34 歳) 東京の大丸百貨店で作品展を開催。26 日間で 80 万人を動員。
- 1958 年 (36 歳) 映画「裸の大將」が公開されるも、自身とのギャップに悩む。
- 1961 年 (39 歳) 約 40 日間で 12 ヶ国を巡るヨーロッパへの旅に出る。
- 1969 年 (47 歳) 高血圧による眼底出血を起こし、倒れる。以後、自宅療養を続ける。
- 1971 年 (49 歳) 7 月 10 日夜、脳溢血で倒れ、7 月 12 日、永眠。

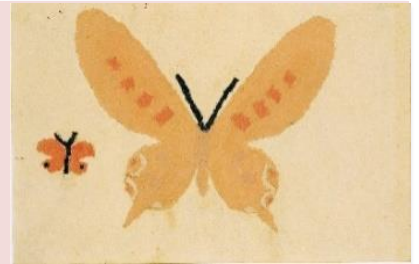


広報画像 ②

展示構成**第1章 山下清の誕生 ー昆虫そして絵との出会い**

浅草に生まれた大橋清 (※父の他界後、母の旧姓である「山下」を名乗る)。幼少期の大病により軽い言語障害を患った山下は、同級生のイジメにあい、唯一の友達であった昆虫を観察しては絵を描いていました。ここでは、その観察眼により生み出された昆虫の貼絵やペン画を中心に紹介します。

《蝶々》貼絵 1934(昭和9)年

**第2章 学園生活と放浪への旅立ち**

八幡学園に入園した山下は「ちぎり絵」と出会い、画才を開花させます。その後、学園の子供たちの作品展で注目を集めるも、突然学園を抜け出し、放浪の旅を始めました。ここでは、学園での生活と放浪時代に創作された貼絵や鉛筆画に加え、旅で使用した浴衣やリュックサックなどを紹介します。

《長岡の花火》貼絵 1950(昭和25)年



広報画像 ③

第3章 画家・山下清のはじまり ー多彩な芸術への試み

放浪を辞め、画家として活動する決意をした山下。1956 年から展覧会を開催するなど、画家としての自覚を深めていきます。この頃、点描によるタッチが特徴的なペン画や油彩など、貼絵以外の創作にも挑戦しています。ここでは、多彩な技法により描かれた作品を紹介します。

第4章 ヨーロッパにて ー清が見た風景

「僕は日本中ほとんど歩いてしまったので どうしても外国が見学したい」という言葉が示すように、山下は 1961 年にヨーロッパへの旅に出ます。ここでは、旅先で目にした風景を描いた貼絵や水彩画を中心に紹介します。

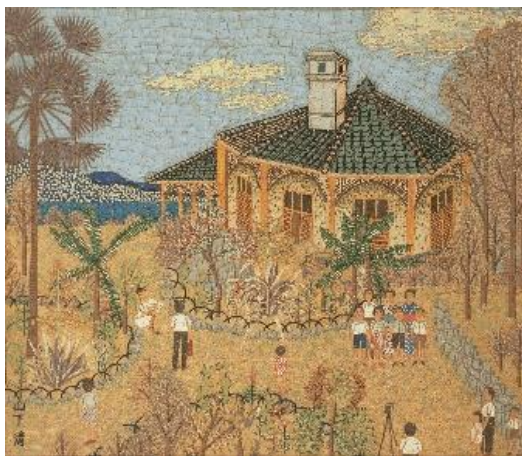
第5章 円熟期の創作活動

山下は、全国各地で開催される自身の展覧会に出向くと、その土地の窯元で陶磁器の絵付けを行いました。この頃、長年の創作活動によって酷使された目の不調もあり、貼絵の創作は減り、絵付けやペン画を数多く手掛けています。ここでは、遺作となった東海道五十三次シリーズを含め、円熟期を迎えた山下の創作活動を紹介します。

みどころ

●山下清の超絶技巧を間近で

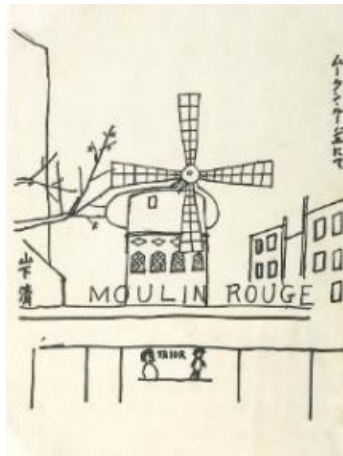
山下の貼絵に使用された色紙のチップは指でちぎったと思えないほど細かく、整然とリズムよく貼り付けられ、きわめて緻密な表現がなされています。また、油彩やペン画は、貼絵を思わせる精緻な点描で描かれ、その表現はまるで機械で打ったかのように同じ大きさで統一されているのも特徴的です。



《グラバー邸》貼絵 1956(昭和31)年 個人蔵



広報画像 ④ 《群鶏》油彩 1960(昭和35)年

《パリのムーランルージュ》
(ヨーロッパ・スケッチブックより) ペン画
1961(昭和36)年

●初公開作品によって、創作活動の知られざる一面を紹介

山下は旅先で絵を描かずに、その驚異的な記憶力により自らの脳裏に焼き付けた風景や出来事を、旅から戻った後、作品にしました。しかし、ヨーロッパ旅行の際にはスケッチブックを携え、その場で対象をスケッチし、帰国後に貼絵や水彩画を制作しました。本展ではそのスケッチのうち、2点を初公開することで、山下の制作過程の新たな側面に焦点を当てます。

●幼少期の貴重な鉛筆画を公開

大橋清時代(8-10歳頃)に描いた鉛筆画を紹介します。なかには山下が生涯愛してやまなかった花火を描いた作品もあり、幼少期から花火好きであったことがうかがえます。また、家族で食卓を囲む様子、父親と思しき人物と二人で入浴する様子など、幼い頃の山下の家族風景が垣間見える貴重な作品も公開します。

広報画像 ⑤ 《花火》大橋清(山下清) 鉛筆画
1930-32(昭和5-7)年頃

写真および図版は全て©Kiyoshi Yamashita / STEPeast 2023

イベント情報

ワークショップ「こより」で貼絵をつくろう ※事前予約制

日時：4月15日(土) ①10:00～ / ②14:00～ (各90分程度)

定員：各10名 参加費：200円(要入館料) 対象：小学生以上

申込方法 3月8日(水)9:30より受付開始。

ミュージアムコンサート

フルートの音色が美しく連なる演奏をご堪能ください。

出演：Collier de perles ～コリエ ドゥ ペルル～

日時：4月22日(土)14:00～ 鑑賞：無料(要入館料)



●広報用画像について

本プレスリリース中に掲載している画像データ(**広報画像と記載されているもの**)をご用意しております。
画像データをご希望の方は、同封の **作品画像使用申込書** に必要事項をご記入の上、当館までファックスまたは下記担当者宛にメールでお申込ください。

当館ホームページ(<https://www.sagawa-artmuseum.or.jp/press/>)から画像申請も受け付けております。

その他の画像が必要な場合は、企画担当者までご相談ください。

なお、作品画像につきましては、当該展覧会の広報以外でのご使用はお断りしております。トリミングなどの画像の加工はご遠慮ください。また、申込書に記載しておりますキャプションの表記もお願い致します。

原稿は企画担当者まで必ずお送りください。確認に期日を要するため、お早めにお問い合わせください。

◆交通のご案内：

お車ご利用の場合

駐車場有 70 台、美術館入館者は無料

- 名神高速瀬田西 IC から湖周道路経由 (約 30 分)
- 名神高速栗東 IC から守山栗東線経由 (約 30 分)
- 名神京都東 IC から湖西道路 (真野 IC) ・琵琶湖大橋経由 (約 40 分)

鉄道ご利用の場合

- JR 琵琶湖線守山駅から路線バス 「佐川美術館」下車 (約 35 分)
- JR 湖西線堅田駅から路線バス 「佐川美術館」下車 (約 15 分)

本件に関するお問い合わせ先

公益財団法人 S G H 文化スポーツ振興財団

佐川美術館

〒524-0102 滋賀県守山市水保町北川 2891

TEL : 077-585-7800 / FAX : 077-585-7810

企画担当学芸員 : 藤井 康憲 (ふじい やすのり)

y_fujii010@sagawa-artmuseum.or.jp

画像使用申込書

佐川美術館 宛

FAX / 077-585-7810

生誕100年

山下清展

申込日： 2023 年 月 日

画像の露出・掲載等 ご使用にあたっての注意	● 申請された方法、目的以外には使用しないでください。 ● 掲載誌・紙は資料として 1 部お送りくださいますよう、お願い致します。 ● 原稿は企画担当者まで必ずお送りください。確認に期日を要する為、お早めをお願い致します。 ● WEB 事前予約制であることを必ず明記ください。予約の詳細はホームページに記載致します。
ご使用画像 ※ご希望の作品に チェックを入れて ください。	☐ ① 《ソニコンロケット》貼絵 1959(昭和34)年頃 株式会社増田屋コーポレーション蔵 ☐ ② 山下清 ☐ ③ 《長岡の花火》貼絵 1950(昭和25)年 ☐ ④ 《群鶏》油彩 1960(昭和 35)年 ☐ ⑤ 《花火》大橋清(山下清) 鉛筆画 1930-32(昭和5-7)年頃 画像使用の際は、下記著作権表記を必ずお願い致します。 「 ©Kiyoshi Yamashita / STEPeast 2023 」
媒体名	
貴社名	
ご芳名(ご所属)	
ご連絡先	ご住所：（〒 － ） メールアドレス： TEL： FAX：
発行(掲出)予定日	年 月 日 号
使用形態(○印)	Web サイト ／ 印刷物 （ カラー ／ モノクロ ）